令和７年度
劇場・音楽堂等機能強化推進事業
成果報告書／事後評価書
①（基礎データ・公演事業の実績値等）

地域の中核劇場・音楽堂等活性化事業	
団体名	一般財団法人北上市文化創造
施設名	北上市文化交流センターさくらホール feat.ツガワ
内定額	2,925　（千円）

（1）令和7年度　助成対象事業一覧

※実績報告書様式13－2(2)事業内容 から転記してください。
　複数の事業類型（公演・人材・普及）が助成対象となっている場合は、それぞれすべて転記してください。

事業番号	事　　業　　名	実施日程	実施会場
普−01	市民参加創造事業　リーコーダーオーケストラ大集合　杉劇リコーダーず＆北上リコーダーず 交流ワークショップ＆演奏会	令和７年７月～８月（４回） ９月	練習室 中ホール
普−02	鑑賞・体験事業　クラシック音楽普及のためのおしゃべりコンサート きたかみサロン音楽会	令和７年12月６日 1月30日、2月21日	小ホール、中ホール
普−03	古典芸能興味関心育て事業　玉川太福独演会	令和7年6月15日	小ホール
普−04	社会共生事業　　手話と音楽と語りで綾なすライブセッション2025 宮沢賢治朗読劇	令和7年9月20日	小ホール
普−05	地域交流事業　盆踊りと吹奏楽の融合　さくら盆ジュール大会	令和7年8月11日	屋外
普−06	地域交流事業　ふれあいアウトリーチプログラム	令和７年６月・７月・８月・ ９月・12月・令和８年１月・	市内各所、小ホール、 中ホール
普−07	子どものための演劇　お話と音楽と砂絵「ふたごの星」	令和7年8月17日	中ホール
普−08	子どものための舞台芸術体験事業KIDSART	令和７年５月から 令和８年３月	小ホール
普−09	子どものための　吹奏楽部楽器クリニック	令和7年9月12日 ～14日	市内小中学校
普−10	子どものためのふれあいアウトリーチプログラム ハロー！アートおともだちツアー	令和７年７月から 令和８年２月	市内保育園、幼稚園、 こども園
普−11	地域の芸術家との協働事業　いわての演奏家とつくる音楽会	令和７年６月29日30日 令和７年９月９日11月5日	練習室、デイサービス、老人ホーム

（2）〔基礎データ〕

※ 交付申請書から転記してください。令和7年度について見込み等の暫定値だったものは、確定した数値を記入してください。

※ 実施中止分を含まない実績値を記入してください。

【1. 事業本数】

項　　目		令和5年度	令和6年度	令和7年度
年間事業本数（※1）	主催事業	23	24	26
	公演事業	6	5	5
	（内、本助成対象事業本数）	0	0	0
	人材養成事業	2	2	4
	（内、本助成対象事業本数）	0	0	0
	普及啓発事業	9	10	14
	（内、本助成対象事業本数）	7	7	11
	共生社会事業			
	（内、本助成対象事業本数）			
	その他　内容：　社会共生事業、共催事業、協力事業	6	7	3

※1　事業の延べ実施回数ではなく、事業本数を記入してください。

【2. 貸館日数】

項　　目		令和5年度	令和6年度	令和7年度
貸館日数	ホールごとの貸館日数	780	770	746
	ホール名：大ホール　座席数：1406	193	190	177
	ホール名：中ホール　座席数：450	235	230	221
	ホール名：小ホール　座席数：記入してください	352	350	348
	ホール名：記入してください　座席数：記入してください			
	ホール名：記入してください　座席数：記入してください			

【3. 施設利用者数（事業利用者数）・開館日数・利用可能日数・利用日数・利用率】

項　　目			令和5年度	令和6年度	令和7年度
施設利用者数（※2）	主催事業入場者・参加者数		24,812	26,373	22,216
		公演事業	7,555	7,912	4,116
		人材養成事業	265	211	234
		普及啓発事業	12,367	11,548	15,536
		共生社会事業			
		その他　内容：　共催、協力事業	4,625	6,702	2,330
	貸館事業入場者・参加者数		128,432	130,000	112,881
	その他　内容：諸室利用者		88,503	88,627	93,823
	計		241,747	245,000	228,920
開館日数			365	364	364
施設の利用可能日数（＝365－（保守点検日数+休館日数））			365	364	364
施設の利用日数			365	364	364
施設の利用率(%)（＝利用日数/利用可能日数）			100.0%	100.0%	100.0%

備考	

※2　実演芸術の公演等を鑑賞する者、ワークショップ等に参加する者、その他の劇場・音楽堂等の事業を利用する者の延べ人数を記入してください。
劇場・音楽堂等のスタッフや、併設施設（美術館、図書館等）のみへの入場者、事業関係者（出演者、指導者、スタッフ等）は除きます。
レジデントカンパニー・アーティストの稽古利用等の場合は「その他」に記入してください。

【4. 公演事業データ】

※ 交付申請書から転記してください。令和7年度について見込み等の暫定値だったものは、確定した数値を記入してください。

※ 実施中止分を含まない実績値を記入してください。

事業種別		事業本数	公演回数	入場者・参加者数	事業本数内訳						
					演劇	音楽	舞踊	伝統芸能	演芸	総合（※3）	その他
令和5年度	主催公演（※1）	6	8	7,555	2	1	0	0	2	0	1
	共催・提携公演（※2）	6	7	4,625	1	4	1	0	0	0	0
	貸館公演	180	220	128,188	5	110	30	15	5	5	10
	計	192	235	140,368							
令和6年度	主催公演（※1）	5	7	7,912	0	2	0	0	3	0	0
	共催・提携公演（※2）	5	7	6,702	1	4	0	0	0	0	0
	貸館公演	200	240	130,000	7	128	25	15	5	5	15
	計	210	254	144,614							
令和7年度	主催公演（※1）	5	5	4,116	0	2	1	0	2	0	0
	共催・提携公演（※2）	2	2	2,330	0	0	0	0	2	0	0
	貸館公演	202	238	112,881	2	122	41	9	10	4	14
	計	209	245	119,327							

※1 名義主催は除きます。
※2 名義共催を含みます。
※3 「総合」には、フェスティバル等における事業数を記入してください。

（3）各公演事業における実績値 及び 評価項目「創造性・企画性」に関する評価指標・目標（値）・実績（値）

・公演事業について、助成対象事業ごとに目標（値）と実績（値）を記入してください。
・入場者数・入場者率（目標値）は**「交付申請書」**から転記してください。
・有料入場者数・有料入場者率（目標値）および評価指標・目標（値）は**「評価補助シート」**から転記してください。

※有料入場者率（%）の計算方法＝**有料入場者数÷公演の設定席数（実績値）合計×100**

事業番号	事業名		入場者数	入場者率	評価指標	目標（値）	実績（値）
		目標値					
		実績値					
		目標値					
		実績値					
		目標値					
		実績値					
		目標値					
		実績値					
		目標値					
		実績値					

令和７年度

劇場・音楽堂等機能強化推進事業

成果報告書／事後評価書

②（評価・所見）

地域の中核劇場・音楽堂等活性化事業	
団体名	一般財団法人北上市文化創造
施設名	北上市文化交流センターさくらホール feat.ツガワ
内定額	2,925　（千円）

（1）各公演事業の自己評価

「成果報告書／事後評価書①（基礎データ・公演事業の実績値等）」に記載の入場者率・評価指標・実績（値）等に言及しつつ、自己評価と自己評定（※1）を記入してください。

（※1）…S～D で記入してください。

※太枠内に記入してください

事業番号	事業名	自己評価	所見

※行が足りない場合は適宜追加してください。

（２）自己評価

評価項目①：創造性・企画性

（※１）…S～D で記入してください。

評価の観点	・（企画力）地域の状況と芸術性とのバランスが取れた、特色ある事業計画である。 ・（制作力）優れたアーティストやスタッフ等が才能や技能を発揮し、高い水準の作品制作や各種事業が行われている。 ・（発信力・影響力）圏域内外の実演芸術を牽引する成果が期待できる。 ・（レジデントカンパニー・アーティスト）当該劇場を創造拠点又は準拠点とする実演芸術団体やアーティストを擁する。	
	・自由設定の観点（任意）（※２）	

（※２）…R７年度評価補助シートにて設定している場合は転記すること。

	評価指標（※３）	目標（値）（※４）	実績（値）
公演事業			
人材養成事業			
普及啓発事業	①(企画力)全事業の参加者数(普-1~11) ②(制作力)独自に制作している事業数（普-1,5~11） ③(制作力)鑑賞者のアンケート評価(普-1~5,7,申請外５事業) ④(発信力・影響力)事業を連携する他の劇場・音楽堂等の数（普-1,7,9,申請外１事業） ⑤(レジデントカンパニー・アーティスト)アウトリーチプログラムを協働で開発する地域の演奏家の人数とアウトリーチプログラム数(普‐10,11)	①11 事業中 11 事業での目標参加者数を達成、総参加者数 5,298 人 ②８事業 ③アンケート回答者の 70%以上が「また来たい」と回答 ④８館 ⑤演奏家 10 人、38 回	①総参加者数 4,483 人 ②８事業 ③94.7% ④12 館 ⑤演奏家７人、28 回
共生社会事業			

（※３）・（※４）…R７年度評価補助シートから転記すること。

成果報告書／事後評価書　　北上市文化交流センターさくらホール feat.ツガワ

・評価指標と目標（値）及びその達成度に言及しながら、事業類型ごとに太枠内に自己評価を記入してください。

公演事業	
自己評価	
所見	
対応・追加情報（所見・意見交換を受けて）	

人材養成事業	
自己評価	
所見	
対応・追加情報（所見・意見交換を受けて）	

普及啓発事業

自己評価	・(企画力・制作力) 自主制作事業を中心に、芸術家と協働しながら、地域の状況と芸術性のバランスを踏まえた普及啓発事業を展開した。全体としてアンケート結果も良好である。 企画力の指標とした全事業の参加者数は 4,483 人となり、目標 5,298 人には届かなかったものの、自主事業 26 本を実施し、多様なプログラム提供を行った。 制作力の指標である独自制作事業数については、目標 8 事業に対し実績 8 事業と、計画どおり実施することができた。また、鑑賞者アンケートにおける「また来たい」と回答した割合は 94.7%となり、目標の 70%以上を大きく上回る結果となった。 これらのことから、参加者数においては課題が残るものの、事業内容の質および満足度は非常に高く、企画・制作の両面において一定の成果が得られたと評価できる。今後は、質の高い事業を維持しつつ、広報やターゲット設定の工夫により参加者数の増加を図っていく。 ・(発信力・影響力) 令和 7 年度は東北を題材とする K バレエ・オブト「遠野物語」の東京・東北（秋田・青森・山形・岩手）・札幌ツアーを実現させ、K バレエ、東急文化村、連携館との大きなプロジェクトを成功させることができた。また、岩手県内の 7 館との協働により 2 期 1 ヵ月に及ぶアウトリーチ事業のコーディネートを担った。自主事業では横浜市磯子区民文化センター杉田劇場、あかがねミュージアム(新居浜市美術館・新居浜市総合文化施設)との連携事業を実施し、東北では中核的役割を担っている。 ・(レジデントカンパニー・アーティスト) レジデント・アーティスト等と連携し、アウトリーチ 28 回（演奏家 7 人）を実施。目標には未達ながら、幼児や高齢者、障がい者等への重点配慮により地域ニーズに応えた。職員と演奏家が協働する開発体制が質の高い事業の基盤となっており、今後は体制拡充と対象の多様化により、さらなる事業の充実を目指す。
所見	○11 事業という数多くの普及啓発事業のうち 8 事業を自主企画制作として実施し、意欲的な活動を展開したと認められる。 ○11 事業全体として設定した目標参加者数には達しなかったものの、アンケート調査における「また来たい」という回答が 94.7%に達するなど、鑑賞者・参加者に対して大きな満足をあたえる成果をあげたと言える。個々の事業における入場率・参加率の要因の分析を進め、今後の事業展開に生かしていくことを期待したい。 ○助成対象外事業も含めて、他館との連携に努めており、広い視野で企画制作していく姿勢を維持している点を評価する。 ○要望書には、レジデント・カンパニー、レジデント・アーティストの欄に記入はなかったが、レジデント・アーティストを活用した事業を積極的に進めていると認められる。レジデント・アーティストと提携した事業の回数やアーティストの人数は目標に達しなかったものの、アウトリーチ活動においては欠かせない存在となっており、今後もレジデント・アーティストを活用した事業の可能性の広がりに期待したい。
対応・追加情報 （所見・意見交換を受けて）	

共生社会事業	
自己評価	
所見	
対応・追加情報 （所見・意見交換を受けて）	

（２）自己評価

（※１）…S～D で記入すること。

評価項目②：国際性（任意）

評価の観点	・(国際プレゼンスの向上) 海外の劇場やフェスティバル、実演芸術団体等と連携し、国際共同制作や海外作品の招聘等に取り組んでいる。 ・(国際交流) アーティストや文化芸術関係者の招聘等、人的交流や情報交換が行われている。 ・(新たな創客への取組) 在住外国人や訪日外国人に向けて文化芸術体験の機会を提供する等、グローバルな視座で創客に取り組んでいる。	
	・自由設定の観点（任意）（※２）	

（※２）…R７年度評価補助シートにて設定している場合は転記すること。

評価指標（※３）	目標（値）（※４）	実績（値）
①(国際交流)海外からの招聘公演数(申請外１事業)	①１公演	①１公演
②(国際交流)海外の劇場への職員研修派遣（申請外事業）	②研修派遣１回２劇場	②研修視察 10/14~17 中華民国(香港)４館、７名
③(新たな創客への取組)市内文化施設へ配架する外国語施設案内リーフレットの設置施設数	③新規２施設(現在、当館のみ)	③新規２施設（図書館、詩歌文学館）
④(新たな創客への取組)館内に配架する外国語施設案内リーフレットの言語の種類	④新規２種（ベトナム語、やさしい日本語）	④未整備
⑤(新たな創客への取組)海外作品を鑑賞した方のアンケート評価（申請外１事業）	⑤「また観たい」「視野が広がった」と回答する人が 70%以上	⑤82.9%(278 枚/アンケート回収枚数 335 枚)

（※３）・（※４）…R７年度評価補助シートから転記すること。

成果報告書／事後評価書　　北上市文化交流センターさくらホール feat.ツガワ

・評価指標と目標（値）及びその達成度に言及しながら、太枠内に自己評価を記入してください。

自己評価	・（国際交流１） 海外招聘公演の実施と成果：令和 7 年度は、大阪・関西万博に合わせて来日したワルシャワ国立フィルハーモニー管弦楽団の招聘公演を開催した。ショパン国際ピアノ・コンクール等で世界的に注目を集める牛田智大氏をソリストに迎え、1,222 人の来場者を記録。極めて高い注目度の中で、国際水準の芸術を鑑賞する機会を創出した。 交流プログラムの展開：公演に合わせ、市内の吹奏楽部に所属する児童・生徒と楽団員による交流会を実施したほか、終演後には指揮者によるアフタートークを執り行った。これら多角的なアプローチにより、一過性の鑑賞に留まらない音楽を通じた国際相互理解の場を提供し、地域における国際文化交流に大きく寄与した。 ・（国際交流２） 海外研修視察の実施：令和 7 年 10 月 14 日から 17 日にかけて香港を訪問し、職員 7 名による海外劇場研修視察を実施した。現地では、香港藝術中心（Hong Kong Arts Centre）、戯曲中心（Xiqu Centre）、M+美術館などの先進的な文化施設を視察するとともに、現地の劇場職員と運営体制やプログラム設計に関する意見交換・交流を行った。 視察の成果と活用：施設運営や観客開発における海外の先進事例に直接触れることで、職員の知見を多角的に深めることができた。本視察で得た国際的な運営手法やネットワークは、今後の事業企画や当館のアクセシビリティ向上、さらなる国際交流事業の推進において重要な指針として活用していく。 ・（新たな創客への取組１） 来場者アンケートの結果：ワルシャワ国立フィルハーモニー管弦楽団演奏会において、来場者アンケートを実施した（回収枚数 335 枚）。その結果、「また鑑賞したい」「視野が広がった」といった肯定的な回答が 82.9%となり、目標値の 70%以上を大きく上回る結果となった。また、無料プログラムの配布やアフタートークの実施など、公演理解を深める取組が来場者から高い評価を得た。 満足度向上の要因：無料プログラムの配布や終演後のアフタートークなど、公演への理解と親近感を深める付帯事業が多大な支持を集めた。これらの取り組みは、新規来場者を含む観客の満足度を高めただけでなく、継続的な来館意欲の醸成に大きく寄与し、着実な「創客」へとつながった。 ・（新たな創客への取組２） 北上市の現状と課題：令和 7 年 12 月末現在、市内の外国人住民は 29 か国・1,505 人に達し（人口比 1.6%）、岩手県内第 2 位の規模となっている。特にベトナム（38%）、インドネシア（22%）の割合が高く、これら多国籍な住民への情報保障とアプローチが急務となっている。 情報発信の強化と今後の展望：外国人住民の施設認知向上を図るため、案内リーフレットの配架先を市内の文化施設 2 箇所へ新たに追加した。さらに、主要言語であるベトナム語および「やさしい日本語」によるリーフレット制作を北上市へ要請中である。これらの施策を通じて、居住地や国籍に関わらず、誰もが地域の文化芸術に触れられる機会を創出し、多文化共生社会の実現に寄与していく。
所見	○助成対象外事業においては、国際的に著名な演奏団体のコンサートも実施され、付随する交流プログラムも行われるなど、国際性の認められる事業も提供された。また、鑑賞者のアンケート結果からも満足度の高さが認められた。 ○7 名の職員を海外研修に派遣し、劇場運営についての知見を高めるよう努めた。研修の成果が生かされるよう期待したい。 ○市内在住外国人のための情報提供に努めている。今後ますますニーズが高まるところと思われるため、引き続き多言語対応のサービス向上に努めていただきたい。
対応・追加情報（所見・意見交換を受けて）	

（２）自己評価

（※１）…S～D で記入すること。

評価項目③：地域文化拠点機能

評価の観点	・(文化拠点) 地域の特性やニーズを踏まえ、地域の文化資源を活用するなど、地域の文化拠点として事業が組み立てられている。 ・(地域連携) 地域の関係機関と連携・協力し、地域コミュニティの創生や社会課題の解決等に取り組んでいる。 ・(児童生徒への機会提供) 次代を担う子ども達を対象とした鑑賞や体験事業が行われている。	
	・ホール利用サービス（貸館事業）の向上（任意）（※２）	
	・自由設定の観点（任意）（※３）	

（※２）・（※３）…R７年度評価補助シートにて設定している場合は転記すること。

評価指標（※４）	目標（値）（※５）	実績（値）
①　(文化拠点)市民ボランティア(ﾌﾛﾝﾄｽﾀｯﾌ、情報誌送付作業)の活動人数(普-1~4，7,申請外７事業)	①延べ 150 人	①延べﾌﾛﾝﾄｽﾀｯﾌ 63 人、情報誌 81 人 合計 144 人
②(生活の質(QOL)の向上度)市民ボランティアのアンケート評価（普-1,2,3,4,7,申請外７事業)	②「新しい仲間」「参加することが生きがいとなっている」「地域（や劇場）に愛着（や誇り）を感じる」と回答する人の割合 70%以上	②未実施
③（文化拠点）市民文化団体の参画数（普‐1,5 申請外２事業）	③７団体	③７団体
④（文化拠点）市民文化団体へのアンケート評価（普‐1,5 申請外２事業）	④「新しい仲間ができた」と回答する人の割合 70%以上	④未実施
⑤（文化拠点）フリースペースにぎわい創出事業数、参加団体数、参加者数（申請外１事業）	⑤９事業、参加団体 120 団体、参加者 1,300 人以上	⑤27 事業、30 回、参加者数 9,018 人
⑥（地域連携）連携する療育ｾﾝﾀｰ、幼稚園、保育園、認定こども園数（普‐10）	⑥北上市内全 32 園（療育ｾﾝﾀｰ１園、幼稚園６園、保育園 14 園、認定こども園 11 園）	⑥北上市内 21 園１校（療育ｾﾝﾀｰ１園、幼稚園５園、保育園 10 園、認定こども園５園、特別支援学校分教室１校）
⑦(地域連携)連携する小中学校数(普-6,9 申請外１事業)	⑦北上市内全小学校 14 校、県立支援学校分教室１校、中学校５校	⑦北上市内全小学校 14 校、県立支援学校分教室１校、中学校３校
⑧（地域連携）連携する老人福祉施設数、障がい者福祉施設数（普-6,11）	⑧８施設	⑧10 施設
⑨（子どもへの機会提供）子ども対象事業の参加率（普‐７～10）	⑨100%以上、全ての事業で目標定員を上回る参加者を得る	⑨子ども対象事業の参加率 64%
⑩（ホール利用サービス（貸館事業）の向上）貸館利用者のアンケート評価	⑩70%以上の利用者が対応に「満足」「ほぼ満足」と回答	⑩84.6%の利用者が対応に「満足」「ほぼ満足」と回答（利用者ｱﾝｹｰﾄ 105 枚）
⑪（ホール利用サービス（貸館事業）の向上）利用者総数、新規利用登録数	⑪利用者総数 234,000 人、新規利用登録数 800 人以上	⑪利用者総数 228,920 人、新規利用登録数 975 人（件）

（※４）・（※５）…R７年度評価補助シートから転記すること。

・評価指標と目標（値）及びその達成度に言及しながら、太枠内に自己評価を記入してください。

自己評価	・（文化拠点） 市民参画と協働の実績： NPO 法人芸術工房との協働による市民ボランティア（フロント・発送作業等）は 144 人が活動し、目標の 150 人に迫る継続的な参画体制を維持した。また、7 つの市民文化団体と連携し、地域交流事業や手話通訳、イルミネーション事業等を通じて多角的な協働を推進した。 フリースペースの活用： 27 事業・参加者 9,018 人を記録し、目標の 9 事業・1,300 人を大幅に超過達成した。これにより、市民主体の文化活動の場としての定着が進み、文化拠点としての機能が強化された。 課題と改善策： 一方で、本年度はアンケート実施に至らず、利用者の詳細なニーズ把握に課題を残した。今後は調査や意見交換の場を定期的に設け､得られたフィードバックを迅速に運営改善へ反映させていく。 ・（地域連携） 教育・保育機関との連携：療育センターおよび市内幼稚園・保育園等との連携は、目標 32 園に対し 21 園で実施した。小中学校においては、小学校 14 校および県立支援学校分教室 1 校で目標通り実施できた一方、中学校は目標 5 校に対し 3 校に留まった。 福祉施設等との連携：老人・障がい者福祉施設については、目標 8 施設を上回る 10 施設との連携を達成した。これにより、世代や立場を超えた多様な市民への事業展開を実現している。 分野により達成度に差はあるものの、地域における多角的な連携基盤の構築が進展した。特に北上市生涯学習文化課との共催等による円滑な運営体制の確保は大きな成果である。今後は未達成となった中学校および各園との連携強化に注力し、さらなる事業の広域化と深化を図っていく。 ・（次代を担う子どもたちへの取組） 実施状況と成果：次代を担う子どもたちを対象とした鑑賞・体験事業を推進した。アウトリーチや学校鑑賞事業等を通じて、市内施設の 73%と連携を実現。乳幼児から児童・生徒まで、機会提供の裾野を一定の水準まで広げることができた点は、地域連携における着実な成果と言える。 課題と改善に向けた方針：一方で、子ども対象事業の参加率は 64%に留まり、目標の 100%には達しなかった。この結果を真摯に受け止め、今後は実施時期や周知方法の最適化に加え、各教育現場のニーズをより精緻に反映したプログラム設計を行う。これにより、参加障壁を低減し、参加率の向上を推進していく。 ・（ホール利用サービス（貸館事業）の向上） 利用者満足度と新規開拓：貸館利用者アンケートにおいて、「満足」「ほぼ満足」の回答が 84.6%に達し、目標の 70%を大幅に上回った。また、新規利用登録数も 975 人と目標の 800 人を超過しており、サービスの質の維持・向上と、新たな利用者層の開拓が着実に進展している。 利用状況の分析と展望：利用者総数は 228,920 人となり、目標の 234,000 人には僅かに届かなかったものの、概ね目標水準を維持した。今後は、好調な満足度と新規登録の流れを総来場者数の増加に繋げるべく、広報戦略の強化と利便性のさらなる向上を図り、貸館事業の活性化を推進していく。 本年度の取り組みを通じて、多様な市民が文化芸術に触れる基盤が整い、地域文化拠点としての役割を再確認することができた。今後は、参画者からのフィードバックを反映させた運営体制の構築を急ぎ、参加者・利用者の量的拡大と質の向上を両立させていく。地域に開かれた「対話のある拠点」として、文化芸術の裾野を広げ、さらなる活性化に寄与していく所存である。
所見	○市民ボランティアについては、アンケート調査の未実施はあったものの、概ね目標に近い延べ人数の参加者を得た。ホールを支えるマンパワーとして大切な存在であると思われるため、今後も人数の確保に努めるよう望む。 ○市民文化団体との連携も同様に大事である。アンケート調査は未実施であったものの、目標とする数の団体と連携することができた。今後もそれらの団体との協力関係の維持と強化に努めるよう望む。 ○フリースペースにぎわい創出事業は、目標を大幅に上回る成果をあげた。市民の文化活動の場としてのニーズの把握に努め、より充実した活動となっていくよう期待する。 ○地域の各機関との連携はほぼ目標どおり進められた。幼稚園・保育園・認定こども園・中学校などで目標に達しなかったところもあったが、引き続き連携に努めるよう望みたい。 ○子どもを対象にしたアウトリーチ等の事業は、精力的に実施されているが、参加率が伸びなかった。原因の解明と周知方法の改善に期待したい。 ○貸館利用者数は目標を達成しており、利用者の満足度も高い。ホールとしての利用者総数はわずかに目標に届かなかったが、引き続き自主事業入場者の増加などによる向上に期待したい。 ○「アートファクトリー」や「さくらパーク」などの館内各施設が大いに活用されており、地域の文化活動の基盤を支える施設として重要なポジションを担っていると言える。

対応・追加情報 （所見・意見交換を受けて）	

（２）自己評価

（※１）…S～D で記入すること。

評価項目④：多様性とアクセシビリティ

評価の観点	・（プログラムの多様さ）プログラムの種類や形態が多様で、幅広い観客や参加者に訴求する。 ・（参画者の多様さ）アーティストやスタッフとして参画する人々の属性（性別、年代、居住地、他）が多様である。 ・（アクセシビリティ）障がいの有無や年齢、性差、国籍、居住地、経済的状況等に関わらず、あらゆる人々と実演芸術をつなぐため、施設の構造・設備上の配慮、プログラム上の創意工夫やサポート、アウトリーチ等が行われている。	
	・自由設定の観点（任意）（※２）	

（※２）…R７年度評価補助シートにて設定している場合は転記すること。

評価指標（※３）	目標（値）（※４）	実績（値）
①（プログラムの多様さ）子育て世代に向けた事業数と入場者、参加者数（普‐6,7,8,10,11、申請外３事業）	①８事業、4,323 人	①9 事業、5,908 人
②（ｱｸｾｼﾋﾞﾘﾃｨ）主催事業託児サービス利用数（普‐2,申請外２事業）	②年間５組	②５事業で実施、３事業６人利用
③（ｱｸｾｼﾋﾞﾘﾃｨ）障がいのある方向け情報保障（字幕ﾀﾌﾞﾚｯﾄ、台本貸出、補聴ｼｽﾃﾑ、ﾘｱﾙﾀｲﾑ音声ガイド等）利用者数（普‐4,7,申請外３事業）	③年間延べ 25 人	③年間延べ 61 人
④（ｱｸｾｼﾋﾞﾘﾃｨ）車いす席、補助犬同伴者席の利用者数（普‐4,7,申請外３事業）	④年間延べ 10 人	④年間延べ４人
⑤（ｱｸｾｼﾋﾞﾘﾃｨ）障がいのある方、一時的に体の機能が低下している方に向けたｲﾝﾌｫﾒｰｼｮﾝﾁﾗｼの整備	⑤5,000 枚	⑤5,000 枚
⑥（ｱｸｾｼﾋﾞﾘﾃｨ）ｱｸｾｼﾋﾞﾘﾃｨ研修の実施、全職員・ｽﾀｯﾌの受講率（申請外事業）	⑥全職員・ｽﾀｯﾌ（管理職、一般職、ﾌﾛﾝﾄｽﾀｯﾌ、アルバイト、警備員等）の70%以上が受講	⑥65%
⑦（ｱｸｾｼﾋﾞﾘﾃｨ）アウトリーチ事業の実施数（普‐6,9,10,11,申請外２事業）	⑦40 か所以上	⑦49 か所
⑧（ｱｸｾｼﾋﾞﾘﾃｨ）アウトリーチ事業の実施先分野数(普‐6,9,10,11,申請外２事業)	⑧４分野以上（教育、保育、老人、障がい、企業、地域、病院の内）	⑧４分野（教育、保育、老人、障がい）
⑨（参画者の多様さ）事業の核となるアーティスト（出演者・講師）の男女比率（普‐1~11）	⑨男女比「１：１」	⑨男女比 24：35 男性 約 40.7%/女性 約 59.3%
⑩他者への理解度（異文化理解、寛容さ、新たな視点の獲得等）鑑賞支援サポートを実施している公演等を鑑賞した方のアンケート評価（普‐1～5、7、申請外５事業	⑩「公共ホールがｱｸｾｼﾋﾞﾘﾃｨの向上に取り組むことが必要である」と回答した人が 70%以上	⑩84.3%（1,184 人/1,403 人）

（※３）・（※４）…R７年度評価補助シートから転記すること。

成果報告書／事後評価書　　北上市文化交流センターさくらホール feat.ツガワ

・評価指標と目標（値）及びその達成度に言及しながら、太枠内に自己評価を記入してください。

自己評価	（プログラムの多様さ） 目標：8 事業 4,323 人 ／ 実績：9 事業 5,908 人 子育て世代をターゲットとした事業を拡充した結果、目標を上回る事業数と動員数を達成した。従来の観客層に加えて、子育て世代を含む幅広い層に訴求することができ、プログラムの多様化に大きく寄与した。 （アクセシビリティ） •託児サービス： 目標 5 組に対し実績 6 組（5 事業で実施） •情報保障（字幕・音声ガイド等）： 目標 25 人に対し実績 61 人と大幅に超過 •チラシ整備・配布： 5,000 枚実施 •アウトリーチ： 目標 40 か所に対し実績 49 か所（4 分野） 一部、スタッフの研修受講率（65%）や車いす席利用（4 人）が目標に届かなかったものの、施設構造上の配慮と情報保障を継続し、開かれた文化施設としての役割を強化した。 （参画者の多様さ） 事業の核となるアーティスト（出演者・講師）の男女比率が男女比 24：35 であり、どちらかに偏りすぎることなく、事業を実施することができた。 （異文化理解、寛容さ、新たな視点の獲得等） 目標：70%以上 ／ 実績 84.3% 公共ホールにおけるアクセシビリティ向上の必要性について、目標を 14 ポイント以上上回る 84.3%の支持を得た。これは事業を通じて、多様な背景を持つ人々への理解が着実に浸透していると言える。今後は、広報活動をさらに強化し、誰もが直面しうる課題として他者理解と寛容さを育む場づくりを継続していく。 多様性とアクセシビリティの充実は、地域の文化拠点が担うべき不可欠な責務である。令和 7 年度は、情報保障サービスの提供や積極的なアウトリーチの実施により、これまで接点が少なかった層を含め、あらゆる人々へ実演芸術を届けるための基盤を構築し、手応えを得た。次年度以降もこの取り組みを堅持しつつ、利用者や地域住民がアクセシビリティの重要性を「自分ごと」として捉えられるよう、普及啓発活動にも一層力を注いでいく。
所見	○多様性とアクセシビリティについては、設定したほぼすべての目標を達成しており、十分な成果をあげたと認められる。 ○利用者の少ないサービスもあったが、サービスを縮小することなく、あらゆる市民のアクセスに配慮した受入れ態勢の維持に努めてほしい。 ○「鑑賞支援サービス対象公演一覧」というチラシが館内に用意されていたが、行き届いた情報提供として評価したいアイデアである。
対応・追加情報 （所見・意見交換を受けて）	

（２）自己評価

（※１）…S～D で記入すること。

評価項目⑤：自由設定（任意）

評価の観点	①　創造性・企画性、②国際性、③地域文化拠点機能、④多様性とアクセシビリティ、⑥運営体制と持続可能性　の項目では成果や課題に言及しきれない事柄について、自己評価を行ってください。（※２）
	・ ・ ・

（※２）…R７年度評価補助シートにて設定している場合は転記すること。

評価指標（※３）	目標（値）（※４）	実績（値）

（※３）・（※４）…R７年度評価補助シートから転記すること。

・評価指標と目標（値）及びその達成度に言及しながら、太枠内に自己評価を記入してください。

自己評価	
所見	
対応・追加情報（所見・意見交換を受けて）	

（2）自己評価

その他：エピソードやグッドプラクティス事例について

助成対象事業に関連して、心に響くような印象的な出来事や、他館の参考になるような好事例があれば、具体的にご記入ください。

【当事者目線の広報と事前体験会が生んだ、アクセシビリティ向上】
対象事業：普-04 社会共生事業　手話と音楽と語りで綾なすライブセッション 2025　宮沢賢治朗読劇

1. 事業の目的と背景
障害の有無に関わらず、すべての市民が文化芸術を享受できる地域社会の実現を目指し、宮沢賢治の朗読劇を題材に、徹底した鑑賞サポートを備えた公演を企画した。

2. 多角的な鑑賞サポートの実施
物理的なバリアフリーに加え、情報保障の面でも以下の多角的なサポートを実施した。
視覚・聴覚サポート：スクリーン字幕、舞台手話演者、音声ガイド（FM 補聴システム活用）、台本貸出
運営サポート：受付手話通訳、誘導スタッフ配置、介助者チケット、補助犬同伴席

3. 本事例の独自性（グッドプラクティス）
設備を整えるだけの「自己満足」に陥らないよう、以下の「当事者参画型」のプロセスを導入した。
「伝わる」広報物への改善：チラシ作成段階から地域の手話サークル等の助言を仰ぎ、必要な情報が確実に届くデザインへと修正した。
事前体験会の実施：公演 1 ヶ月前に FM 補聴システムやポータブル字幕の体験会を開催。この「安心感」の提供が口コミを生み、当事者ネットワークを通じた強力な広報につながった。

4. 成果と今後の展望
本事業を通じて職員と当事者の間に「顔の見える関係」が構築され、当日の会場は手話であいさつを交わしたり、家族や友人を紹介していただくなどの温かな交流の場となった。 この成果を一時的なものにせず、組織全体の DNA とするため、経営計画に基づき、全課横断型の「アクセシビリティ向上推進委員会」を発足。自主事業だけでなく、貸館事業でのサービス提供も視野に入れ、実演芸術の力で誰もが暮らしやすい地域づくりを牽引していく。

（２）自己評価

評価項目⑥：運営体制と持続可能性

（※１）・（※２）…Ｒ７年度評価補助シートから転記すること。

※太枠内に記入してください

○「実現性」の項目より〈（ア）～（エ）〉

評価の観点	（ア）多様な財源の確保 予算計画が妥当であり、事業収入のほか、各種助成金や寄附金・協賛金等の獲得に努めている。	（イ）広報・営業力 広報計画が充実しており、券売や集客、会員制度等の拡充に努めている。
現状（※１）	民間事業者からの協賛金は順調だが、公共の補助金は採択の可否が年度末等まで見通せない。	個々の制度は行っているものの、不十分と感じている。
目標(値)（※２）	個別事業費の２～４割の獲得を目標とする。	今年度の経営計画の改定の際に、戦略的な対応を進める。
実績(値)	冠コンサートやネーミングライツを通じた協賛金等を合わせても全体事業費の５％程度にとどまった。	次年度から、広報誌を月刊から隔月刊に見直した上で紙面のページを倍増させ、事業とホールの情報を充実させることとした。
団体の自己評価	目標からは大幅に下回る結果となった。	現時点では、実施に取り組んでいるところであり、評価には至っていないが、以前よりも情報量が大幅に増える見通しである。
所見	○「民間事業者からの協賛金は順調」とあるが、「全体事業費の 5%」とのことであり、苦しい状況が理解される。引き続き外部資金導入の工夫と努力を期待したい。	○広報誌の拡充による訴求力の向上に期待したい。
対応・追加情報	市内の企業等を対象にコンベンションを企画、実施し、企業と Ｗｉｎ－Ｗｉｎの関係を構築する取り組みを始めた。	

評価の観点	（ウ）他館連携 他の劇場・音楽堂等との事業連携や協力・支援を通じて、効果的で効率的な事業運営を行っている。	（エ）設置者 円滑な事業の継続のため設置者と適切に意思疎通を図っており、設置者による人材や財源の確保等が期待できる。
現状（※1）	全国各地の劇場・音楽堂等との事業連携や協力体制を構築している。東北内では幹事館としての役割を担うことが多い。	開館と同時に採用した利用料金制度により、一定の財源の確保と自主的な運営を任されているほか、月に１回定期的に市側と会議を持っている（合同会議）。
目標(値)（※2）	今後も維持していくほか、年に複数件、創作型事業を率先して他館と作り上げていく。	維持する。
実績(値)	Kバレエ・オプト「遠野物語」の大型案件においては、幹事館として東北地区の他の３館と連携したほか、例年通り岩手県内複数館との連携を行った。	合同会議は順調に実施し、市側と情報共有を行った。また、空調に大きなトラブルがあった際には、市側からも予備費支出や人的対応など緊急措置が実施された。
団体の自己評価	全国各地の劇場・音楽堂等との事業連携や協力体制を構築している。東北内では幹事館としての役割を担うことが多い。	順調な対応が行われている。
所見	○北上市内に留まらない視野で活動していることを高く評価したい。地域のリーダーシップを担う施設としてさらなる飛躍を望みたい。	○引き続き設置者（北上市）と意思疎通が図られ、良好な関係が継続するよう望みたい。
対応・追加情報		

○「持続可能性に関するチェックシート」より〈(オ）～（セ)〉

評価の観点	（オ）芸術監督 芸術監督等、劇場運営の芸術面を統括する人材が配置されている。	（カ）長期的経営 長期的視点に立ち、劇場運営を統括する、経営実務者が配置されている。
現状（※1）	人材を配置していないが、理事会の事業部会や評議員から芸術面をサポート頂いている。	専務理事兼事務局長がその任に当たっている。
目標(値)（※2）	維持する。	維持する。
実績(値)	事業部会から意見を頂戴している。評議員からも事業推進において意見を頂戴している。	維持されている。
団体の自己評価	大きな問題は感じられていない。市民のための多目的施設としては適切である、と判断している。	行政の財務の視点ではなく、企業会計の視点から判断する者により経営がなされている。
所見	○現状において課題は生じていないものと受け止めている。劇場スタッフが優れた知見を獲得し、関係者・関係各所からの指導・助言を生かしていくことによって、企画性や創造性が確保されていくことと思われる。	○厳しい財政状況の中でのかじ取りとなることと思われるが、長期的な視点での経営手腕に大いに期待したい。
対応・追加情報		

評価の観点	（キ）専門人材の確保 今日的な劇場運営に必要な職能や専門性を踏まえ、運営体制が整備されている。あるいは専門人材の確保や育成に努めている。	（ク）職制の整理 芸術監督、館長、支配人、プロデューサー、その他管理職の職位及び職能、一般職員の職務内容等が専門性を基に整理され、役割分担されている。
現状（※1）	プロパー職員の育成を進めているが、不十分と感じている。	プロデューサーを配置した。
目標(値)（※2）	経営計画の改定の際に、本格的に専門人材の育成を進めようとしている。	経営計画の改定の中で、職務内容等を整理する予定である。
実績(値)	次年度に、必要とされる将来の職員の人材像を作り上げ、これに向けた育成目標を策定する予定である。	その他の職員との関係を踏まえ、将来に向けた人材像から計画の改定が必要と考えているが、次年度以降の検討となる。
団体の自己評価	最初の一歩を踏み出した、と判断している。	これからの課題であるが、既存職員の処遇との関係整理が大きな課題になるものと、推定している。
所見	○非公募で採択されている指定管理団体であるので、長期的な展望での専門人材の計画的な育成が可能かと思われる。プロパー職員の能力向上は施設の可能性に直結するものであるため、人材育成の取り組みに大いに期待する。	○経営計画改定の中で、職制の整理が進むよう期待したい。
対応・追加情報		

評価の観点	（ケ）世代間バランス 年齢バランスを考慮した人材確保を行っている（若年層の雇用に努めている）。	（コ）ジェンダーバランス 女性管理職比率が 30%以上である。あるいは、女性の管理職やリーダー職への登用に努めている。
現状（※1）	若年層の雇用に苦慮している。	登用されている。 （管理職男女比率３：２）
目標(値)（※2）	経営計画の改定の中で、将来に向けた人材像を構築し、それに沿った人材確保を行う予定である。	維持する。
実績(値)	ひとまず、次年度の予算に雇用のための予算を確保した。	維持されている。
団体の自己評価	最初の一歩を踏み出したと判断している。	対応できている、と判断している。
所見	○スタッフの世代間バランスは、長期的な視点において重要であるため、十分配慮されるよう望みたい。	○スタッフのジェンダーバランスは良好であり、今後も維持されるよう望む。
対応・追加情報		

評価の観点	（サ）ワークライフ・バランス 仕事と育児･介護等の両立支援制度を整備し、推進している。	（シ）コンプライアンス順守 情報セキュリティをはじめ、各種コンプライアンスの順守規定を策定し、必要な研修を行っている。
現状（※1）	就業規則に規定して支援している。	行っている。
目標(値)（※2）	維持する。	維持する。
実績(値)	維持しているほか、勤務時間の開始においては、家庭の事情も考慮して常時繰り上げ・繰り下げできる規定を新たに設けた。	維持している。
団体の自己評価	さらに踏み込んだ体制を整えたものと判断している。	Ai の運用など、時代に即した研修を模索する必要がある、と判断する。
所見	○時間に不規則であることが避けがたい劇場・音楽堂等ではあるものの、柔軟な働き方を可能にして、働きやすい職場環境を醸成されるよう望みたい。	○現代においては極めて留意すべきことであるため、問題が起きてから困ることのないよう、十分な対応をお願いしたい。
対応・追加情報		

評価の観点	（ス）ハラスメント防止対策 職場内及び創作現場におけるパワー・ハラスメント、セクシュアル･ハラスメント等防止のための指針等を策定・周知し、必要な研修を行っている。	（セ）適正な契約事務 アーティストやスタッフと適正な契約書を交わしている。
現状（※1）	研修を行っている。	アーティストやスタッフと適正な発注書及び契約書を交わしている。
目標(値)（※2）	維持する。	維持する。
実績(値)	維持している。	維持されているほか、新たに内規として財団の契約規程を制定してルールを文書化した。
団体の自己評価	適正に維持されているものと判断している。	適正に維持されているものと判断している。
所見	○引き続き良好な労働環境の維持に努めてもらいたい。ことに責任ある立場の役職員は、意識のアップデートに努めてもらいたい。	○適正な契約に基づいて、各事業が行われるよう引き続き努めてもらいたい。
対応・追加情報		

（3）総評

※太枠内に記入してください。

団体の自己評価

【企画・制作能力と中核的役割】
独自制作事業において、芸術家・劇場資源・市民をつなぐ役割を担い、質の高い普及啓発を実現したことで、当館の実務的制作能力を発揮することができた。広域連携においては、岩手県内、東北地域、横浜、新居浜とのプロジェクトを実施し、効率的な事業運営と人材育成に寄与した。近年、他館からの事業運営や制作に関する相談件数が増加していることや、全国公立文化施設協会の技術研修会において舞台技術課長が登壇・事例発表を行い、全国劇場・音楽堂等職員アートマネジメント研修会オンライン配信プログラムで理事長が講師を務めるなど、当館の知見が評価され、東北における「中核的拠点」としての役割を担えていると感じる。
【社会的責務とアクセシビリティ】
多様性とアクセシビリティの充実は公立文化施設の不可欠な責務である。令和 7 年度は情報保障サービスの提供やアウトリーチを通じ、実演芸術を届ける基盤を構築し、手応えを得ることができた。次年度以降もこの取り組みを継続するとともに、地域住民がアクセシビリティを「自分ごと」として捉えられるよう普及啓発に注力したい。
【地域の文化拠点】
市民参画や地域連携は着実に拡大しており、乳幼児から児童・生徒まで、機会提供の裾野を一定の水準まで広げることができた点は成果と言える。ホール利用者数は公演事業や東北大会規模の催事の入場者数に影響を受けるため、より多くの来館者を得るよう、営業活動をしたい。新規利用登録者も多く、文化拠点として役割を果たせている。
【課題と今後の展望】
国際水準の芸術鑑賞機会の継続的な提供や、多国籍住民へのアプローチは課題である。また、参画者からのフィードバックを運営に生かす取り組みなど体制を構築し、地域に開かれた「対話のある拠点」として文化芸術の裾野を広げ、さらなる地域活性化に寄与したい。

所見

○令和 7 年度は、普及啓発事業のみの採択であったが、助成対象外事業も含めて、概して意欲的な事業展開を行っていると認められる。それは、スタッフの企画制作能力によって支えられているものと思われるところであるが、その背後には、優れた機能を備えた施設を設置し、非公募による指定管理者選定によって運営者である一般財団法人北上市文化創造を支えている北上市の文化政策があることも高く評価したい。
○一般財団法人北上市文化創造は「北上市民及び岩手県中部地区広域市町村の住民に対し、質の高い芸術の鑑賞・体験の機会の提供、住民自らの創造的な文化活動への支援などを推進し、心豊かな地域社会の形成に寄与すること」を目的に掲げているが、対象を「北上市」の市民に限定していないところが優れており、評価したい。これにより、当該施設は広い視野で事業を企画制作しており、広域的な連携による地域の活性化に資する活動を展開している。広域的な連携による地域の活性化は今後ますます重要性を増すことと思われることもあり、今後の活動の広がりには大いに期待されるものがある。
○当該施設には、ホール施設のほかに、「アートファクトリー（芸術工房）」と称される 21 の部屋や、「さくらパーク」と呼ばれるフリーな空間が備わっており、利用者にフルに活用されている。施設内はさまざまな利用者によって常に賑わいを見せており、ホールにおける文化事業だけでなく、これらの付帯設備が市民に活用されることによって、地域の文化拠点としての存在感を発揮している。
○また、当該施設は多様な人々に開かれた施設としてのあり方を探求しており、ことに障害のある人々の受け入れには積極的に取り組んできている。今後は、地域に定住している外国籍の人々をも取り込んで、共生社会の実現に資する活動においても成果をあげるよう期待したい。
○当該施設が今後も活発に活動を継続していくためには、専門人材の確保と計画的な育成が欠かせないところである。働きやすい健全な就労環境の整備と長期的な視点による人材の確保・育成に今後も取り組んでいくことが望まれる。
○自己評価にもあるが、事業実施のいっそうの継続発展のために、しっかりとアンケートやヒアリング、インタビュー等によるフィードバックを得てニーズや課題の把握を行い、事業に反映する仕組みを構築していただきたい。

備考